

## 第5回 文化交流施設整備検討会【要旨】

日 時	令和3年12月27日（月）午後6時～午後8時
場 所	オンライン開催
出席者	<p>（委 員） 卯月盛夫委員長、齋藤啓子副委員長          羽生冬佳委員、両角達平委員、町田高委員          鎌田理光委員、松田智子委員、小林行男委員          清水啓史委員、志村博委員、富永新三郎委員          北川嘉昭委員、古瀬清美委員</p> <p>（事務局） 伊藤地域文化スポーツ部参事、文化交流推進課担当          松崎再開発担当部長、能見再開発担当課長          住まい街づくり課担当</p>

### 1 開会挨拶、委員出席確認

### 2 議題

- （事務局） 資料1（仮称）荒川区西日暮里駅前文化交流施設整備基本方針中間報告案は、これまでの検討会の内容をまとめたものであり、来年2月の区議会へ中間報告として報告予定である。目次1「西日暮里駅周辺の現状と課題」から目次4「文化交流機能の現状と課題」までは、区の現状及び区で検討した内容を記載している。目次5「文化交流施設整備検討会における検討経過」には、事例報告や検討会での意見等を踏まえた整理を別図1にまとめるとともに、具体的な検討方法として今後、参考となる施設から文化交流施設に望むべき機能の具体化を図っていきたいと考えている。加えて、文化交流施設の管理運営を検討する視点についての考えを記載した。次に目次6「施設整備に対する意見整理」では、再開発事業としての制約もあるが、検討会の意見を整理し、必要に応じ準備組合に要望したいと考えており、別図2、別図3にまとめている。さらに、文化交流施設整備とともに周辺地域の魅力向上や一体的な情報発信が必要であると考えており、資料2としてまとめた。
- （委員長） 中間報告案は、施設のソフト面、再開発ビルのハード面、地域との関係づくりと大きく3つに整理したところである。中間報告案への意見はいかがか。
- （委員） 3点あるが、目次5（5）文化交流施設の管理運営に①から⑦までであるが仕分け方法がよく分からない部分がある。また、目次6（1）施設に①から⑩まであり、この記載は再開発全体の話かと思うが、そう考えた場合⑧は再開発ビル内の施設である主要素とショッピング部分の商業施設の二次的要素と捉えると、地域ブランドという趣旨にはならない。3点目は、同（2）資料2であるが、西日暮里周辺で考えた場合の各要素と地域ブランドの周遊図は一致しないと考えるため、整理すべきではないか。
- （委員長） 施設の管理運営については、これまであまり議論できていないと認識している。同項目にある④はどういう意味か。
- （事務局） 目次5（5）については、あまり議論できていないが、サービスを提供する際に公と民でサービスの特色に違いが出ると思い記載した。今回意見を頂きたい部分である。目次6（1）⑧の趣旨は、7階の魅力ある施設と1階から6階のショッピング施設も含めた再開発ビル全体で1つの地域ブランド空間をつくれたらと考えた。地域ブランドに対する事務局の認識が誤っていたため、変更案をいただければと思う。資料2については、再開発ビルと周辺地域で考えた場合、周辺地域の魅力ある各施設の点を線で繋げていければと考えたが、意見をいただければと思っている。④リニューアルの趣旨は、来館者が飽きることのないよう施設の機能を固定化せず、1年単位やデザインなどを適宜変更していききたいというものである。

- (委員長) 管理運営については、検討会であまり議論できていないため中間報告で詳しく述べる必要はないだろう。文化交流施設で提供できる機能やサービスという表現にし、内容の検討は、次回以降でいかがか。また、④については、サービスの更新ということなので、表現は変えた方がよい。
- (委員) 目次5(5)は、今後、管理運営事業体を選ぶ基準となる項目ならば、今後参考施設を視察した後にこの検討をすべきではないか。
- (委員長) 参考施設の視察でその施設の運営管理で参考となるものがあるだろうし、民間事業者の選考基準になる可能性もある。ここの記載については、今後検討する前提でよいだろう。
- (委員) 例えば、運営委員会を作り、管理運営を行ってもらうのはどうか。
- (委員長) このような施設は、事業性も大事だが公共性も重要であり、常に区民が発言できるような運営委員会があると良いと感じる。運営委員会は、目次(5)⑦に繋がるものであり、ここに運営委員会と記載しておくのはどうか。
- (委員) 従来 of 公共施設の一步上の区民サービスを提供でき、再訪したくなるものとなるよう管理運営面を検討するという記載でいかがか。
- (委員) これまでの議論は、ハード面に関するものが多かったと記憶している。中間報告案を作成するにあたり、ソフト面について事務局と議論を重ねたところである。施設完成当初ならば、サービス部分も機能に含まれるが施設の魅力を長年維持できるかが大切であり、どのようにすればサステナブルな仕組みを担保できるかを議論したく、管理運営という標記にしている。検討会で意見をいただくとともに、他参考施設を視察し、この施設が魅力を保ち続けるために、今後検討していきたい。
- (委員) 教育業界では、民間事業者入ってくるが増え、塾が学習支援をやっているような形になってしまっており、公益性が損なわれてしまっている。民間事業者が参入することは良いが、侵食が大きく消費主義化してしまうことが多々あるため、慎重になることも必要である。
- (委員長) 今後、参考施設を視察する際の1つの視点として共有しておきたい。次に、目次6(1)⑧であるが、表現を変更するかたちでいかがか。
- (委員) 目次5(5)⑥に同様な記載があるため、6(1)⑧は削除した方が同項⑨周辺地域との連携と繋げやすいだろう。
- (委員長) 資料2については、従来 of 事例報告では、事例報告のみをまとめていたため、まず事例報告のみをまとめた方がよいのではないか。
- (委員) 目次6(2)の資料とするならば、西日暮里界限で観光の主要素になりそうなものを地図にし、それらを結びつけるためには再開発エリアで何を担わなければならないのかということを考えるべきである。資料2には、主要素となるはずの再開発ビルが入っている。  
前回の事例報告はあくまで観光についてであるため、観光目線の場合、観光の主目的になるものを対象地域に含むべきかについて疑問が残る。
- (事務局) 資料2については、西日暮里地域にあるものを地図にし、再開発ビルがそれらをつなぐ役割となるように修正する。
- (委員長) 次に目次5(4)の参考となる資料3を説明願う。
- (事務局) 資料3は、これまで意見が出た16施設をまとめたものである。施設①「希望丘青少年交流センター(アップス)」「ゆう杉並」は、若者と地域関係団体の運営委員会が運営を共同で行っており、無料で自由に使用できる施設である。施設②図書館や生涯学習センター、また市民活動などの場となっているような複合施設「武蔵野プレイス」、「大和市文化創造拠点シリウス」、「信州・学び創造ラボ(長野県立図書館)」「立川市まんがばー

く（立川市立子ども未来センター）」である。施設③企業と連携して職業体験ができる「子どもクリエイティブタウン『ま・あ・る』」、施設④買い物だけでなく、居場所や回遊できる空間がある「国分寺 カフェローカル」「函館蔦屋書店」「渋谷PARCO」である。施設⑤デジタルを活用した体験施設や屋内の子どもの遊び場として「ずかんミュージアム銀座」「立川PLAY!」。施設⑥ワークショップを行い施設の回遊性をデザインした「太田市美術館・図書館」、施設⑦ボランティアが活躍する「山田緑地×パルパーク・プロジェクト」、施設⑨ユニバーサルデザインとして「としま区民センターのトイレ」「スターバックス nonowa 国立店サイニングストア」以上である。

- （委員長） 全ての施設の良いところのみを取り入れれば良い施設ができるわけではないため、取捨選択をし、荒川区らしい特徴のある文化交流施設としたい。取り入れるにあたり、大事な視点などあれば、意見を伺いたい。
- （委員） 文化交流施設をどのようなものにするか広い視野で考えているところである。この施設は眺望が良いため窓側をカフェスペースにし、外を眺めながらお茶を飲んだり、電車を見られたりするのも良いと思っている。そのため、参考施設から取捨選択するのは難しいと考えるので、検討会で出た意見から目的に沿ったものを選ぶ方が良いと考える。
- （委員） 参考資料に荒川区再開発事業一覧図があるが、西日暮里地区は区内他地域の再開発に比べ都市的な場所であり、文化交流施設の利用は区民と区外から通勤や通学などで定期的に通っている人、「荒川区にあんな施設があるならば、行ってみよう」という3つのターゲットがあるだろうと改めて感じた。

資料3の「国分寺カフェローカル」は、駅前再開発ビルの5階にあり屋外広場では、下のフロアで購入したものや手作り弁当を持参し食べるなど、利用率が高い広場となっており、眺望は大切である。西日暮里の再開発ビルは、屋外活用は未定かと思うが、屋外空間は眺望も含め様々な利用が考えられるため、この施設は屋外との接点について参考になるだろう。
- （委員長） この広場の管理運営は、カフェローカルやリオンホールを管理しているところがやっているのか。
- （事務局） ホームページの情報であるが、施設管理は指定管理であるが3社が一緒に運営をしているようである。その中のNPO法人が地域の運営委員会を担っているようである。
- （委員） 当初、カフェ部分は市民が自由に使えるホールであったが日常的な魅力が担保できず、いつも寂しい場所であり市民の評判がよくなかった。NPO法人がカフェローカルを誘致し、現在の形となった。国分寺では、「こくベジ」という地産野菜をブランド化し消費することが市民権を得ているため、このカフェでの料理提供や下層フロアのスーパーで取り扱っている。
- （委員長） NPO法人はもともとあったのか。建物の管理は指定管理者等で民間が行い、魅力ある新しい企画などを考えるのは運営委員会やNPO法人の2者が一緒に担うという方法は、文化交流施設にも参考となるだろう。
- （委員） このフロアの活用方法の検討は市民参加でやっているため、そこが母体となりできたNPO法人と理解している。
- （委員） 資料3を検討の参考とするための補足説明となるが、これらの施設は現在運営されている施設であり、文化交流施設を考える際は完成頃の10年先を見据えた検討が必要となる。この内容がそのまま使えるものではない。参考としたい部分は、サービスを考える視点や利用者になんか喜んでもらうもの考えるうえで、どのようにアプローチしていったかということではないかと思っており、その施設の魅力の作り方や施設への動線や施設の魅力を保つための工夫である。

運営面でいえば、直営、指定管理、民間という形がある。直営については自治体が行うため魅力的な施設運営に限界がある。その課題から生まれた指定管理制度という民間の自由な

発想を生かしつつ、管理運営をとというものであるが、自治体がチェックする必要がある中で民間の自由な発想をどこまで認めるかというのが非常に難しく、課題もある制度である。最後に民間への貸付であるが、商売がうまくいかなかった場合に撤退してしまうことや自治体がコントロールできないリスクがあると認識しており、全てのやり方にそれぞれの課題があると思っている。

いろいろな管理形態がある中で、例えば管理運営を民間が行うならば、住民や行政の確認ができていいのか、住民参画やNPOなどを新しい運営の担い手を作ることも重要と思う。

資料3を今後参考とし、基本方針の最終報告へつなげる議論が出来たらと考えている。

- （委員） 良い面のみでなく、課題事例から学ぶこともあると考えるため、参考施設の課題面も把握したほうがよい。
- （委員） 参考施設は、文化交流施設に比べ延床面積が狭いため、何種類も活動ができていないと考える。文化交流施設では時間割を決めるなどし、学生も参加できるようにスポーツ、美術、音楽などの更に高度なものをできるようにコンセプトを考えるのはどうか。
- （委員） JR東日本が山手線を「東京感動線」とし、沿線の多様な個性の点を線から面にしていくための事業を行っている。西日暮里駅では、「エキラボniri」や「西日暮里スクランブル」プロジェクトを進めており、観光戦略として運営している。
- （委員長） 南千住地区の再開発が魅力的であるという話題があった。西日暮里の再開発の特色を共有するために、区内の再開発についてまとめてもらったため、説明願いたい。
- （事務局） 区内では、12地区で再開発事業が完了している。最古は、町屋駅前西地区、それ以降日暮里、南千住、三河島と区内の主要な駅周辺で再開発を実施した。区内最大規模の白髭西地区再開発は、東京都が防災拠点としてのまちづくりを目指し、計画から40年程度で完了した事業である。話題となった南千住の商業施設は、白髭西地区再開発地区と南千住駅との間で行っている住宅市街地総合整備事業により整備した地域にできた商業施設である。今後は、この西日暮里駅前地区のほか三河島駅前北地区での再開発を予定している。

これまでの再開発で、防災面や環境面、景観面等が格段に向上しており、従前の密集市街地の状況と比較した場合、歩行者スペースや緑地が整備され安全かつ快適な空間が生まれている。また、賑わい創出については商業面積が増加し、利便性に寄与する店舗や地域支援が整備され、従前と比較すると向上してはいるが、地区によっては、店舗の集客力や空き店舗が見られる課題がある。そのため、西日暮里駅前地区再開発では、商業の充実とともに、周辺地域を含めた活性化に寄与できるものとしたい。また、ルートにつぼりを活かし、日暮里駅前地域へ波及効果による賑わいの創出ができるよう取り組んでいきたい。
- （委員） 再開発自体、反対の立場である。会議での各委員の意見を聞き、施設が出来るならば、区民が理解できる施設が良いという思いや各委員の報告等で参考となるものもあったが、厳しい気持ちである。
- （委員長） 再開発事業はいろいろな問題を抱えていると思っている。このように議論することで再開発事業がより良く改善できると思っている。
- （委員） これまでの検討会では、若い人の参画に関する議論が多かったため参考施設も、子どもや若い人向けの施設がほとんどである。文化交流施設には、高齢者も来るためその世代をターゲットにした施設も参考に視察したい。インクルーシブ社会を実現するためには、新たな施設が必要であるため、発展的な議論をしていきたい。
- （委員長） 多世代に魅力ある施設には、高齢者の視点も重要である。従来の施設は、多様な人の属性のニーズに合わせる必要性はなかったと思うが現在は必須となっており、きめ細やかなソフト面のサービスが必要な時代である。
- （委員） 再開発ビル内へ外から注目を集める主要素となる施設を目指すか否かについて問題提起をしたところである。

先ほどインクルーシブ社会をとあつたが、例えば荒川区では、どんな人でも住みやすく今まで何気なく使っているものを同じように使うことに抵抗があつた人たちが積極的にこの場所で活動してほしい旨を出すことも先進的な事例として恐らく注目されるだろう。区としてどういうまちを作っていくかということはこの施設で体現できるものがあると、外から注目される施設になるだろう。

「としま区民センターのトイレ」だが、当初は「子育てしやすい環境をつくろう」ということで、池袋周辺でトイレが不足しているという視点から作り始めたが、H a r e z a プロジェクトに含まれた結果、コスプレイヤーの更衣室という要素など様々なものを取り入れ、コンセプトがわかりづらいものとなっている。

どういう区を目指すかということが文化交流施設のメッセージとして出てくるとよい。

- （委員長） この再開発にはどのようなメッセージを込めるのか。
- （委員） 区民だけでなく全ての人にとって良いものを作り、魅力を発し続けられるようにしたい。最終的には、区民の貴重な財産となる。再開発事業は、まちに与えるインパクト大きい。「やってよかった」と言われるようなまちづくりにつなげるためにも、拠点となる文化交流施設が喜ばれる施設であってほしいと思っており、検討会で活発に議論し、よりよいものになれば有難い。
- （委員長） 検討会で議論し、何かメッセージ性を出したいと思う。
- （委員） 新しい公共施設ができることで、荒川区は面白いところだということにまちづくりなどに関わってこなかった人たちも発見するきっかけを私たちが準備して上げられたらと思う。

国分寺の再開発ビルは、完成した当初残念な場所であつたが、NPOが作った国分寺の地図を貼り、カフェでイベントを行う際に使用できる形としたことにより、市民が培ってきたネットワークや経験で、盛り上がってきつつある。文化交流施設でも地域の特色のようなものを訪れた人が学べる仕組みがあつてもよいのではないか。

- （委員） まだ議論の途中の部分もあるが、これまでの検討会で比較的議論しきった気もしている。今後の検討内容を確認するためにも例えば、施設を作るうえでデザインやまちづくりという建築の視点から、必要なプロセスなどを専門的な立場から教えてもらう回も必要ではないか。
- （委員長） まず、中間報告を2月に議会へ報告し、議会意見を参考としながら、次年度は、住民のワークショップを企画している。その際は、空間的な話やデザインについても交えながら行っていく予定である。
- （事務局） 今回の意見を踏まえ、2月に区議会へ報告を行うため中間報告を修正する。修正案については、各委員へ確認をさせていただく予定である。第6回の検討会では、議会報告での意見を踏まえ更に議論を行いたい。また、次年度は、施設の運営面や区民意見の聴取、動線も含めた施設のデザインをどうしていくかについて検討したいと考えている。

### 3 次回日程

3月15日（火）

### 4 事務局からの連絡事項